

I 令和6年度の運営総括及び来期の課題

平成19年9月の開館から丸17年を迎えた。今日まで、述べ72万人を超える来館者が、白根児童センターを利用してくれた。約4年に及ぶコロナ禍も明け、徐々に施設利用や行事、ボランティア行事も再開し、以前の活動に戻りつつあった令和6年度であった。

平日の午前中や土日を中心に乳幼児親子が多く訪れ、伸び伸び遊んでいる様子が見られた。『クリスマス会』や『豆まき会』などの季節行事になると特に利用者からの反応も良く、父親や祖父母と家族一同で参加してくれる親子も多い。また今年は小学生、中学生、高校生がイベントを手伝ってくれるようになり児童センターならではの多様な交流の場を生み出した年でもあった。

一昨年度、情報発信する力を高めていきたいと目標に掲げ、Instagramでの広報を開始。見る人の目に留まるように工夫を凝らして情報発信をし始めて約2年、南区以外であったり、新潟市外からの来館も着実に増えた。

中には「Instagramを見ていてずっと来てみたかったんです」との嬉しい言葉や掲載した行事の申し込みが増える等、利用者からの反応は良いと思われる。また口コミで来てくれることも徐々に増え地道な日々の活動が実を結び始めているのを感じる。

また、午後からは小学生が来館し、アリーナや集会室、工作室、遊戯室、図書室で元気に遊ぶ様子が見られた。アリーナでは身体を動かして遊んだり、親子でバスケットボールやバドミントンの練習に励んでいる様子も見られた。中学生や高校生に遊んでもらっている様子もあり、多世代交流も生まれていた。夕方からは中高生の利用も多く、アリーナで身体を動かして遊んだり、テスト前になると工作室や図書室で勉強する姿もあった。行事の際は率先してボランティアや小学生たちの手本となる姿を見せてくれる頼もしい一面も見られる。また今年度から秋葉区の小学校から移動児童館の依頼がきたり、白根小学校、ひまわりクラブとの3者での連携会議が行われるようになり、新たな地域の繋がりがつくれたことやより強固な連携体制が作り出すことができた。

白根児童センターで過ごす子どもたちを見守る日々の中で、子どもたちの声に耳を傾け、時には叱咤激励をしながら、ともに歩みを進めてきた。小さいころから通っていた子どもたちが新中学1年生、高校1年生になり、社会人になってからも時折立ち寄っては近況を話していく姿や時間がある時は行事ボランティアにも来てくれる。長い年月の中で、たくさん子どもたちと出会い、子どもたちの成長に寄り添ってきたごく当たり前の日常が、白根児童センターで過ごす子どもたちにとって、かけがえのない時間として積み上げられていることを実感した一年だった。

1. 乳幼児事業

(1) 総括

乳幼児親子の中には母親のみならず、父親や祖父母の姿も多く見られた。頻繁に足を運んでくれる親子も多く、来館するたびに子どもの成長を共に実感することが出来た。南区の『子育てオーエンジャー☆みなみ』や『子育て安心ささえ隊 3739』の方々とも連携を取りながら、子育てをする母親支援にも努めた。また、BP 講座の開催を通して、母親同士が情報共有できる仲間づくりにも焦点を当ててきた。

① 定例行事

『おはなしの時間』は月に2回実施し、絵本や大型絵本、紙芝居などの読み聞かせを楽しんでもらい、2回のうち、1回は読み聞かせ後にカプラブロックを楽しんでもらう時間も設けた。『ちびっこ工作』では月に1回、工作をする時間をつくり、親子で楽しめる工作を提供した。乗り気じゃない子にもお家で楽しめるように工作キットとしてお渡ししました。

② 季節行事

『ちびっこハロウィン』、『ちびっこクリスマス会』『ちびっこ豆まき』等の季節行事を開催。約1か月前から申し込み予約を受けるが受付開始直後からたくさん申し込みをいただくことも増えた。参加者みんなで遊べるコーナーやダンス、中学生の職業体験と合わせて中学生に1ブース担当してもらったり、ボランティアの小学生に小鬼に扮してもらっての豆まき、また中高生にもイベントを手伝ってくれるようになり、昨年度以上の世代交流が実現した。

③ 移動児童館（カプラ遊び）

児童館事業をより広く知ってもらうために移動児童館を行った。毎年恒例になりつつある諏訪木保育園や臼井保育園を訪問。園の親子行事での依頼もあり、需要は高まってきたように感じる。『カプラブロック遊び』では、参加月齢に応じて平面での製作や立体での製作を多くしたりと試行錯誤しながらカプラの楽しさを伝えた。カプラブロック遊び以外では『読み聞かせ』や『軽い運動遊び』を提供した。

④ 地域の方々との共催事業

子育てオーエンジャー☆みなみとの共催行事では7月、3月に『ほっぺちゃんひろば』を2回開催した。1回目の「ピアノ演奏とハンドトリートメント」では大人気のハンドトリートメントとオーエンジャーメンバーによる素敵なピアノ演奏を聴きながらリラックスできる回となった。2回目は「鷺尾助産師さんの講話」の人气回で『入園入学の際に気をつける』をテーマに鷺尾さんの実体験を基にした講話に加え、ママたちの困りごとや質問にも答えてもらえる時間もあり、大盛況だった。

子育て安心ささえ隊 3739 と白根地区社会福祉協議会との共催行事では 6 月、11 月に「プランターの花植え」、6 月に「親子リトミック」、12 月に「けん玉教室」、2 月に「親子工作」によるよろへびとワニのストラップ」、3 月に「人形劇」と多種多様な行事を実施していただき、利用者からも大変好評であった。

毎年実施していた『ベビーマッサージ』は、昨年度から引き続き西白根地域でベビーマッサージ教室を開かれている講師をお招きしてオイルを使用してのベビーマッサージを行事として 12 月、2 月と年 2 回行うことができた。

⑤ その他

子育て支援事業として 2 ヶ月～6 ヶ月の子ども(第 1 子)を持つ母親対象の『BP1 講座』、そして 2 ヶ月～5 ヶ月の子ども(第 2 子以上)を持つ母親対象の『BP2 講座』を実施。保育園やこども園の園外保育での利用も再開され、多くの園児さんに遊びに来てもらう機会が増えた。園外保育で利用の後には保護者と一緒に一般利用してくれる子も多い。

(2) 来期の課題

母親支援と親子のふれあいを重点に、地域とともに講座や広場、行事の充実に努めてきた。休日を中心に、父親と幼児が一緒に来館する姿を多く目にする。行事や季節のイベントに、父親や祖父母も一緒に参加する様子も見られた。引き続き、利用者のニーズに合った行事の充実に努めると共に保護者の不安や悩みに寄り添えるような関係性を築き、親子の居場所として地域に根付いた施設になれるよう努めたい。

2. 小学生事業

(1) 総括

平日は、習い事や学校の帰りが遅くなり遊びに来館する子が少なくなっているが、核家族化で共働きが多く、子どもたちが日中を安心安全に過ごせる場として、児童センターが『第二の我が家』のように過ごす子どもたちの姿が少なからず見られる。

毎日来館する子もいれば、たまに来館し様子を見に来る子もいて利用の仕方も様々であるが、イベントがあると積極的に参加してくれ盛り上がっている。

ボランティア事業も職員と一緒に季節の壁面を貼るお手伝いや、ハロウィン・クリスマス会の準備、当日のハンドベル演奏など幅広く担ってくれた。幼児向け行事「ちびっこ豆まき会」では小鬼に扮して豆をまかれる役から最後は一緒に「鬼のパンツ」を踊るところまで協力してくれ大活躍だった。子どもたちも役に立てる事が嬉しい様子で嬉々として臨んでくれていた。

① 定例行事

アリーナが開放されている期間は毎月、『アリーナで遊ぼう』を開催した。ドッジボール大会や巨大オセロ、ミニ運動会、鬼ごっこなど様々な競技に取り組んだ。中学生も参加してくれ

ることもあり、良い多世代交流となっていた。

『折り紙の日』は昨年に引き続き、地域のボランティアから教わる形に。『作って遊ぼう』は様々な工作を企画しそれぞれの創意工夫がみられる良いイベントを実施できた。また「自由工作週間」も新たに設け、少し難しめの工作キットで高学年の子も楽しみながらつくっていた。

実際に参加者と対話をしながら製作することで小学生たちの創造力の豊かさに驚かされる場面もあった。

② 季節行事

『ハロウィンウィーク』では、事前に衣装を準備して仮装してきてくれた子にお菓子を配るイベントを実施。初の試みだったが、しっかりと仮装をして来館し盛り上がりを見せていた。夏季の長期休暇には『夏休み工作』でプラバン作りや休暇最終週には『水風船で遊ぼう』を実施。ビニールプールと水遊び用おもちゃも使用して、普段はできない外遊びを思いっきり楽しむこともできた。『クリスマス会』では、身体を動かすゲームやクリスマスリースづくりといった工作もおこなった。『お正月おたのしみ会』では高校生と一緒にお正月にちなんだ遊びをみんなで楽しんだ。

③ 『南区自治協議会』と『南区地域総務課』との共催行事

『みんなで宿題！～ハッピー夏休み♪～』として、4日間連続で小学生の夏休みの学習をサポートする行事となった。チラシが白根小学校と小林小学校に全校配布され、幼児さんの頃は頻繁に遊びに来ていた子がこの行事のために久しぶりに来館してくれることにも繋がった。夏休みの課題を持参し、ボランティアの見守る中、学習に取り組み課題が済んだ子は読書や折り紙などをして過ごした。白根高校生がボランティアとして入ってくれたり等世代交流にもなった様子。

④ 『白根地区社会福祉協議会』と『子育て安心ささえ隊 3739』との共催行事

2団体と共催の行事で『お花を植えよう』を2回、『親子工作』、『けん玉教室』を2回、『人形劇』を実施。幼児親子、小学生を対象とし、特別感のある行事を楽しんでもらった。

⑤ 南区児童館 4 館合同ドッジボール大会

昨年度に引き続き南区の白根北児童館、白根南児童館、味方児童館と合同で児童センターアリーナにて4館対抗ドッジボール大会を開催。低学年、高学年とそれぞれの部に分かれて総当たり戦で試合を実施。当日は応援の兄妹、保護者含め112名が参加。児童センターチームは低学年の部で3位、高学年の部で3位。負けた悔しさは相当に残ったようで数か月経っても「次のドッジボール大会はいつ！？今度は負けない！」等意気込む高学年が多く良い経験となった様子。また今回多く参加していた小学6年生から「来年、中学生の部もつくって！」という声も多数上がった。

⑤ 移動児童館

小林ひまわりクラブ、臼井小学校に移動児童館で遊びの提供を行った。

乳幼児で行っていたカプラをレベルアップし、みんなで協力して大きな製作物をつくった。保護者にも参加してもらい親子交流の一面も見られた。

また今年度より秋葉区の結小学校からお声がかかり、初めての区外への移動児童館を行った。待ち望まれたところもあったのか多数の児童が参加。大きな盛り上がりを見せていた。

(2) 来期の課題

子ども一人ひとりの自主性・創造性、社会性、協調性を重視しながら、自分で自由に遊びを見つける手助けをしていくとともに、日々の子どもたちの様子を観察し、変化を見落とさないように、注意深く見守っていきたいと思う。また、日頃から保護者とのコミュニケーションをとることはもちろんのこと、地域の方々にも協力を仰ぎながら、多くの大人の目で子どもたちの成長を見守っていきたい。そして今年度より白根小学校も加わったひまわりクラブとの3者の情報交換会が各月で行われるようになった、これからも連携を密にしていきたいと思う。そして、南区の他3館の児童館と共に共催して行うドッジボール大会も継続して実施していきたい。

3. 中・高生事業

(1) 総括

中高生の中には、開館当時から長年児童センターを利用している子どもたちが多く、職員との信頼関係も強い。日々の悩みを相談したり、愚痴を聞いたり職員と会話を楽しむ様子も見られる。部活動や習い事との兼ね合いもあり、中々行事ごとに参加することは少ないが、中高生タイム(6時から7時)では、アリーナでスポーツを楽しんだり、定期テスト前には、職員に勉強を教えてもらうこともあった。アリーナが中高生でいっぱいになるくらい、スポーツをすることが楽しみで訪れる子どもたちが多いのも児童センターの特徴だと感じる。また今年度はいつも来館してくれる高校生が児童センターの数々の行事に興味を持ってくれ「ちびっこクリスマス」や「小学生お楽しみ会」ではピアノの演奏や企画立案なので多岐にわたって活躍してくれた。

(2) 来期の課題

アリーナが閉鎖している期間、体を動かす機会が少なくなる。また、利用できる部屋が制限されることもあり、中高生の『居場所作り』が課題になってくる。学校での部活動も縮小されていき、SNSの普及によるコミュニケーション不足も深刻化している。児童センターは多世代交流の場なので乳幼児親子や小学生とも関われる場をつくっていききたい。

4. 地域との連携事業

- ①『白根地区社会福祉協議会』、『子育て安心ささえ隊 3739』との共催で今年度も多くの事業を実施。6月に「親子リトミック」、12月に「けん玉教室」、2月に「親子工作」を実施。6月と11月にはプランターに花や球根を植える「お花を植えよう」、3月に「人形劇」と計6回も行事を実施した。「お花を植えよう」、「けん玉教室」、人形劇団ちょうちん座による「人形劇」は小学生の反応もよかった。来年度以降も連携を強めていきたい。

凧組との連携

白根地域の伝統である大凧合戦の前日に開催される『こども凧合戦』に昨年度に引き続き参加。白根児童センターも、本新蝶組の子ども会と、どこの組にも属していないが凧を揚げたいという小学生4名と一緒に凧を揚げた。子ども凧合戦復活には最適な天候で白根児童センターの宝船の凧は計3回も揚げてもらうことができた。

③子育てオーエンジャー☆みなみとの連携

年に2回、ほっぺちゃん広場を実施。7月回では「ピアノ演奏とハンドトリートメント」を実施。約4年ぶりにオーエンジャースタッフによるハンドトリートメントが再開され、ピアノ演奏と共に過ごしてもらい、参加者はオーエンジャースタッフに話を聞いてもらいながら日々の子育ての疲れが癒されている様子だった。3月回には「鷺尾助産師さんによる講話」を実施。講話の後には参加者からの質問に答える時間があるなど毎年大盛況である。

④ひまわりクラブとの連携

白根ひまわりクラブ1、2の先生方と児童の情報共有や行事案内など定期的に合同会議を行った。また日々アリーナや遊戯室も利用して伸び伸びと遊んでもらっている。

「折り紙の日」や「お花を植えよう」、「けん玉教室」など多くの小学生行事に参加している。

⑤大学との連携

新潟医療福祉大学より7月に3年生が2人実習に来てくれた。行事の運営や利用者との関わりに重点をおき学びを深めてもらった。学生たちが企画した行事も実施し、遊戯室で身体を動かして遊ぶことができた。